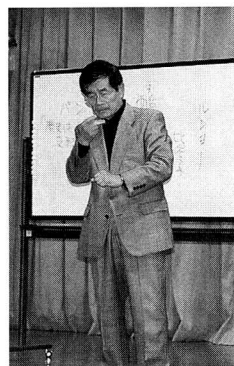


【基調講演】「小岩井是非雄先生を語る」

講師：宮下豊輔氏（元松本ろう学校同窓会長）

小岩井是非雄先生の講演会においで下さった皆さんに感謝申し上げます。

さて、小岩井先生のサインネームは『まゆげ』『男』とあらわします。なぜそのような手話表現をするのか、私は詳しい理由を知りません。誰か先輩が広めて、東京でそのあらわし方が広まって、長野に帰ってきた様です。その後『小岩井校長先生』の『小』と『長』であらわしはじめました。現在では、『小岩井』『校長先生』とあらわしますが、昔の『まゆげ』『男』のサインネームのほうが良いと思うので、みなさんこの手話表現をぜひ使ってください。歴史的にも、昔の手話表現の邦画良いと思います。よろしくお願いします。



小岩井先生は学校で何処かの本にのっていた天皇陛下の写真を教室の壁の上の方に張っておき、戦争中は皆に集合させ、きちんと並ばせて、90度体を曲げての深いおじぎをさせました。それは普通の挨拶のおじぎよりとても長い時間頭を下げさせられました。おじぎをすることは誰も逆らえませんでした。まるでそれは江戸時代大名行列が通るときに、庶民が道ばたに土下座をして、決して『頭が高い』といわれぬように決して上をみてはならないようにじっとしているような感じでした。それから、日の丸の国旗。この二つに対しては、最敬礼で、まるで軍隊のように厳しかったです。

私が8歳でろう学校に入学した時、入学式の挨拶もお話も、全て手話で行われました。私は学校に入ったばかりで手話も全くわかりませんでした。しきりに先生が私の方を指差して、両手を握って鼻に天狗の鼻のようにくっつけて、『注意なさい』と促すような顔をするのです。何の意味やらさっぱりわかりませんでした。どうも『体をふらふらさせないで、お行儀良く座って居なさい、』と言っていたのだと思います。

小岩井先生は若いころはちょびひげでしたが、そのころ豊橋辺の誰かから八の字ヒゲが流行りだし、たぶん吉川先生のまねをして、ヒゲの形を変えたと思います。そのころ壁に飾ってあるおじいさん達の写真をみてもヒゲをたくわえた写真が何枚もあったのを珍しくて憶えています。先生はあまり背が高く無く、今の私より10cmほど小さかったです。

体育の時間に整列すると、先生は前に出て「列を真直ぐに整えなさい」「ほらそこ曲がってるぞ」など非常に厳しかったです。

背の小さい順にきれいに一列に並ばせると、冬の寒い時期でも、上着を脱げというのです、こんなに寒いのに？え～？と思いました。それは乾布まさつをさせるため、乾いた布で腕をしばらくこすると、ぽかぽかとあたたかくなってきました。毎日ではありませんでしたが、ときどき、このかんぶまさつをしたものです。腕、背中、足のもも、腹とこすって、こうすると体のためによい、病気なんかにならないぞといわれてやったものです。

先生自ら校内のゴミを拾って歩き、校舎の周りの板塀に穴が開いているのを見つけると生徒に直させました、お金が無かったので、張り替えるのでは無く、つぎはぎに穴を塞ぐのですが、生徒の中には、修繕をいやがるものもいました。しかし軍隊式でとても厳しく、

天皇に逆らえないように、天皇をうやまうように、先生を敬いなさいと教えられました。

それから、先生は、自転車のハンドルの所に木製の柄を、自分で工夫して作って取り付けていました。何に使うんだろうと思いましたが、自転車に乗り乍ら傘を持たずに固定して置き物だったようで、よくこんな物を自分で作ってしまうんだなあと思いました。

自転車に乗る時には必ずスタンドを立てて、異常が無いかわかしてから、必ず3回地面を蹴って勢いを付けてから乗るのです、乗ったら、サドルに腰掛けると言うより、ほとんど立ち漕ぎの姿勢でした。なぜかというと、先生は足が短くて、サドルに腰掛けるとペダルにつま先が届かなかったからです。先生が帰っていくのを、学校の2階に慌てて駆け上がって、見送りました。上から眺めて様子をみていますと、交差点では必ず、自転車から降りて、右、左を注意深く見てから、また3回蹴って自転車にまたがってほとんど立ち漕ぎで真直ぐ前を見て帰っていくのを二階の窓から小さくなるまで見送ったものです。

算数の時間、昔は六珠（ろくだま）そろばんでしたので大変難しかったです。今のそろばんは、上に1つ下に4つの5珠ですね、おおきなそろばんを見せながら、4たす1は5だぞ『たす』はわかるか？『ひく』は取り除くことだぞ、などと手話で説明しながら授業を進めます、皆『わかりました』とうなずくのです。おおきなそろばんのたまを動かし乍ら細かく長々と説明するので、みなあきあきしてしまって、つまらなそうにしている者もいましたがやはり天皇陛下に逆らえないように、先生に逆らうこともしませんでした。当然先生のほうが目上です。でも厳しい面と、ニコニコ笑顔の優しい面と両方でした。

国語は『校〇先生』の〇の中には何という漢字を書くかわかるか？というようにして、わかる者に手をあげさせました。良くかけた時には大変ほめられましたが、反応が無いとひどくおこりました。『校長先生』は小岩井先生御自身のことですからね。わからないと言うと、自分がなごりにされているようで、怒ったのでしょう。

寄宿舎は校舎の2階にあり、男子と女子に分かれていました。畳み敷でしたが、男子生徒などはふざけて暴れるものですから、畳表がすぐにいたんでしまったものです。あまりにぼろぼろになってきたので、小岩井先生は生徒会長である私に、修繕を命じました。「え？わたしが、ですか？私は寮生では無いのに」と思いましたが逆らうことはできません。下の食堂から御飯粒を持ってきて、40センチ程に紙を切ってつぶしたごはんつぶを練ってのり代わりにし、私が指示して寮生に張らせました。何度も穴をふさいでは破り、幾重にも上から張るので、男子寮の畳はぼこぼこといびつになっていきました。それにひきかえ女子寮の畳はきれいなままでした。結局、学校の経営が苦しいことを知っていたPTAの寄付で新しい畳が入りました。先生はとても喜ばれ、その後は畳敷きの部屋で騒ぐことは禁じられ、校舎の裏庭で遊びなさいと厳しく注意されました。寮生ではないのになあ、と思いながら叱られた私は、寮生に注意しなさいと言いました、寮生の中には私より年上の人も居ました。



卒業式の日、体調を崩された先生を、迎えに行くように先輩から言われて、近所から荷

車（リヤカー）を借り、4人で先生の実家まで一時間かけてお迎えに走りました。昔は運動靴など無く、下駄履きでした。道も今のように広くは無いし、車もさほどはしっていない、石ころの転がっている道をがたがたとリヤカーを引いていったのです。

小岩井先生の奥様は聴者でした。突然ですが、今日は卒業式ですので、お迎えに上がりましたと伝えると、分かって下さいました。先生は風邪を引いていましたので、奥様は先生に上着をたくさん着せて、マスクをしてマフラーをぐるぐる巻いて帽子をかぶせて送りだして下さいました。リヤカーの後ろに座ぶとんを引いて、そこに座っていただいて学校までお連れしました。とても疲れましたが、行き帰りでげたの歯がすりへったほどでした。

卒業式は校舎の2階にある3部屋つぎのふすまを全部外して大きなひと部屋にして、そこに机を持ち込んで行いました。建物が古いので、ふすまの立て付けも悪く、外すのも一苦勞でした。卒業式が終わったところで、他の人と代われば良いのに、又迎えに入った4人で先生の家までお送りしたので、疲れしました。



昔は川がきれいだったので、先生が泳ぎに連れていってくれました。今は川にゴミが多くてダメですが、昔は水もきれいで泳げたのです。男子は今のような水着ではなく、短パン姿で泳ぎました。女子は見ているだけでした。また、川にはセリが生えていたので、とって帰って、寮でおかずにして食べました。

自転車がパンクすると、先生は御自分で直しておられました。私は修理のお手伝いをしました。タイヤの中のチューブを出して、川でバケツに水を汲んでこいと言うので汲んできますと、空気を入れながらバケツの水にチューブを浸すのです、すると、どこから空気がもれているのかわかるからです。あちこち穴が開いてぼろぼろでしたが、ゴムを切っただけで貼り、石でこすり、なおしてしまうのです。かなり熱くなるのですが、農業で手の皮が厚いためか、へいきなようでした。自転車屋さん顔負けの素晴らしい修理の腕でした。

また、自転車の後ろの荷台に荷物をのせて固定するゴムひもも、タイヤのチューブを細く切り、再利用して作ってしまいました。アイデアを持つ先生でした。

白板に学校があったころ、雪の降る冬の朝、皆で天皇陛下にお怪我など無いように、お宮に参拝に行きました。雪の日だと言うのに、裸足で列になって30分程走って行きました。冷たくて辛かったけれど、帰るころには足がぼかぼか暖かくなっていました。これも健康のための様です。

また、いつも校舎の隅々まで掃除をさせられました。あまりうるさくいうので、しゃくなので友だちと3人で相談して、先生の家を見に行きましたら、先生の家もとてもきれいに掃除され表裏のないことがわかりました。畑も、鋤など畑を耕す道具類もきちんと整理されており、お花もきれいに植えてありました。私どもを迎え先生は、先生の奥様が大切にしている花だから、踏み付けてはいけ無い、気を付けて歩きなさい。と注意されました。

美術の時間は、人物画デッサンを習いました。モデルをよく見て、あまり、きょろきょろし過ぎず、モデルをじっくりとみて描きなさいと指導されました、私はデッサンが得意でしたので、ほめていただきました。そのころ描いた絵が欲しいと思いましたが、先生が全て保管しており、返してくれませんでした。

小岩井先生は、口癖で、「私は、100歳まで生きる」といつも言っておられました、あまり言うので皆はうるさがっていました。しかし目標は100歳まででしたが、惜しくも87歳でお亡くなりになりました。

松本ろう学校同窓会60周年記念事業として、母校に待望の『初代校長小岩井是非雄先生』の銅像除幕式が行われました。私は昔、銅像を建立したいと思ったがそのころは、寄付が集まらなくて実現しませんでした。今回皆さんの多くの寄付をいただいたおかげで、立派な銅像を建てることができました。本当に有り難うございました。



(記録：内田博幸)